

第3学年 日本語学級「俳句で季節を感じよう」(オンライン授業)

トピックのねらい	○易しい文語調の俳句を音読し、言葉の響きやリズムに親しむことができる。
日本語の目標	○「私のお気に入りの俳句は、～です。なぜなら、…だからです。」の文型を使って気に入った俳句を紹介することができる。 ○「〇〇の季語はなんでしょうか。」「正解は〇です。なぜなら、～だからです。」の文型を使って、季語のクイズを出題・回答することができる。 ○「私の俳句をよみます。(俳句を詠む)」の文型を使って、俳句を作り、発表することができる。
関連	教科・単元 国語科「俳句を楽しもう」A 「夏の暮らし」B 総合「ドキドキフィリピン探検隊」C
	暮らし・行事 「日本の伝統文化・俳句」D
主な学習活動	① 俳句の基礎知識をつけ、響きやリズムを楽しむ。 ② 季語を集め、俳句を作る。 ③ 作った俳句を発表する。

教材・教具等：国語の教科書

授業展開

時間	学習活動	指導のポイント 支援：○日本語 ◇教科 ＊バイカルチュラル視点	関連
1	1 五七五の響きを味わう。 ① 国語の教科書 85 ページを音読し、リズムが共通していることに気付く。	○デジタル教科書の音源を用いて一緒に読む。 ＊俳句はフィリピンやその他の国でも広く慣れ親しまれていることを紹介する。	A C D
	五七五で表す世界をたんけんしよう。		
	2 俳句の世界観をイメージする。 ① 俳句を聞いてイメージすることを発表する。 ② 俳句の情景から感じたことを話す。	○俳句のイメージが必要であればイラストや写真で見せる。 ◇教科書 158 ページの気持ちを表す言葉を参考にする。	A
	3 お気に入りの俳句を選び、発表をする。 ①お気に入りの俳句を暗唱する。 ②なぜその俳句が好きなのか理由を言う。	○「私のお気に入りの俳句は、～です。なぜなら、…だからです。」の文型を提示し、安心して発表できるようにする。 ◇俳句の情景や意味、言葉だけでなく、音の響きでお気に入りの一句を選んでよいこととする。	A

2	1 俳句のルールを学習する。 ① 俳句は、文字数と季語が大切である。	○前時の復習をする。 ◇俳句を声に出して読み、文字数が同じことを確認し、それによって調子の良さが生まれていることを確認する。 ◇「季節」とは何なのか問う。 *フィリピンとは違い、日本には四季があることを確認する。	A
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 季語を集めて、はいくマスターになろう。 </div>		
	2 季語クイズに答える。 ① 前時の俳句の季語の季節を予想する。 ② 日本の夏に関係する言葉を確認する。	◇国語の教科書 98 ページ「夏のくらし」を活用する。	A B
3 季語クイズを作る。 ① 春夏秋冬で思いつくものを書き出し、一つ選ぶ。	○「○○の季語はなんですか。」 「正解は□です。なぜなら、～だからです。」という文型を提示し、安心して取り組めるようにする。	A	
3	1 俳句の発表会を行うことを知る。	○俳句の発表会のことを「句会」と呼ぶ。	A
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> はいくの発表会をひらこう。 </div>		
	2 俳句をつくる。	○季語や文字数について復習をする。	A
	3 俳句を発表し、聴いている人は季語とその季節を考えホワイトボードで答える。	○教科書の俳句の中に出てくる季語を例に提示する。	A
4 友だちの俳句に対する感想を述べる。	○発表しやすいように、「私の俳句をよみます。」という文型を提示する。	A	

令和3年度 第3学年 日本語学級「俳句で季節を感じよう」ふりかえり

児童の様子	≪日本語学級での様子≫ 【1時間目】 ○俳句の情景で関連した写真や絵を提示することで、感想を言えるようになった。 ○海を題材とした俳句の人気が高かった。 ○モデル文を用意したことにより、発表することができた。 ▲常夏の国で過ごしているため、冬はレジャーの思い出が少しあるだけで、雪国の人の苦労は理解が難しいようであった。 【2時間目】 ○クイズにやる気を出して取り組んでいた。 ○考えに理由をつけることを頑張っていた。 ▲前の週の学習内容を忘れていた児童がいた。 ≪在籍学級での様子≫ ○俳句の決まりを積極的に発表した。 ○俳句の意味をよく理解し、好きな俳句を選び、暗唱し発表することができた。 ○応用課題としての俳句の作成に参加した。 ○タガログ語の俳句をみんなの前で詠んだ。	
	学習活動	成果 ○俳句の情景を表した絵の提示をすることで、子どもたちの思い出と俳句を繋ぐことができた。 間目 課題 △デジタル教科書の音声が続いていて音読をしてほしかったが、オンラインでは一斉に音読するタイミングがつかみにくい。 →教師が範読する。 △自由に俳句の印象を話し合っても、「どう思う？」と聞いただけでは子供たちは何も答えられなかった。 →答えやすいように、自分の思いに近いことばを提示する等、工夫が必要であった。
について	2時	成果 ○季語の季節を考え、菜の花は、花だから春というように理由も話すことができる児童がいた。 ○冬眠のように、現象の名前を答えられなくても、長く簡単な言葉でその言葉を表そうとしていた。
	間目	課題 △季節のない国で育っているため、季節と季語を一致させることが難しかった。 →そのものがなぜその季節の季語であるのかを理由をつけて説明した。 △ブレイクアウトルームを使い、質問のある児童が質問しやすくなったが、質問をしたい児童が多く、手持無沙汰で待っている児童がいた。 →3人で授業を行い、ブレイクアウトを2つに増やす。

3時 間目	成果	諸事情により未実施
	課題	諸事情により未実施